東南アジヤ視察記 (一)

町会議員　渡辺喜久雄

千葉県昭和議員の東南アジヤ視察団に参加された町会議員渡辺喜久雄氏は、各国の状況をつぶさに視察して見聞を広められ、一月二十六日無事帰国されました。そのお土産話の一端を寄稿していただきましたので、みなさんにご披露いたします。

私ども千葉県昭和議員団一行梅沢団長以下十一名は、県知事初め地元市町村長ほか知名有志の方々の激励を受け、自らは郷党の期待を背負って未知の外地東南亜の、政治経済両面の探究に情熱を燃やして旅立ったのであります。

目を奪う香港の夜景

ノースアメリカンジェット機で羽田空港を飛び立ったのは、昭和四十四年一月十二日の十三時二十分でした。上空は雨でしたが飛行は真に快調でまたたく間に第一寄港地の香港に到着、初めて見る国際都市香港は高層ビルがギッシリと立ち並び、さすがに豪壮な眺望でした。

その夜は指定されたホテルに一泊しましたが、土産物あさりに外出して驚きました。宝石店、時計店など陳列してある品の豪華さ！何百ドルもの商品が山と積まれているのですっかり魅了され、夢の国にいる心地でした。

香港の夜景はたしかにすばらしく、正に目を奪うものがおりましたが、その裏を覗いたとき貧富の差が余りにも隔たっている現実を見せられ、ここに問題があるということを痛切に感じました。

中共国境の緊迫感

十三日はマカオ訪問、マカオ政府主席のレセプションに出席して日の丸の交換、記念撮影、親善会談を行い、意義ある一日を過しました。

マカオは鉄礦石の産地で、主として日本へ輸出し、その利益をもって国費の大部分を賄っているとのこと、われわれは大事なお客さんとして大いに歓待されました。

中共との国境に案内されて行きましたが、中共兵がすぐそこに、警備隊の長マントを靡えしながら、双眼鏡でこちらを見ているのが手にとるように見え、此処にも国際情勢の緊迫感が漲っていることを強く感じました。

水上翼船で再び香港に引返し一泊。

タイ国は真夏のよう

十四日香港を発ってタイ国の首都バンコックへ。

天気快晴、気温三〇度、極暑の地に着いて吾々は冬から真夏への急変に、予想はしていたもの戸まどいました。その夜はマンハッタン・ホテルに投宿。ホテルは外人観光客で大賑いでした。

十五日朝メナム川の水上マーケットと言われる野菜市場を見学しました。ここは水浴も川、煮炊も川の水で、非衛生極まる未開国の一面をマザマザと見せられました。

次いでバンコック支庁で日の丸交換、記念撮影等の親善行事を済ませてから、日本大使館の懇談会に出席。

大使館員の話によると、今だに山田長政の事跡が遺っており、日本人に対する親しみが深く対日感情は特に良好であるとのことでした。

マンハッタンは寺院の街で、立派な寺院が各所に建ち並び、中には五トンもある金の仏像がかざられ、或はまた五〇メートルもある寝シヤカの像が安置されているなど、それぞれ由緒のある寺が多いとのことでした。

此地の青年は結婚前三年間は必らず僧籍に入り修業をする掟になっているそうです。

市中では多くの自動車を見かけましたが、その内の二〇～三〇パーセントは日本製で、主としてブルバードであったことは心強い限りでした。

ただ環境衛生の面はまさに低開発国なみと言わざるを得ない現状を見ては少からず考えさせられました。（未完）

マカオ国会議事堂前にて
前列右から二人目　寄稿者渡辺氏
後列左から四人目　マカオ政府主席

四月のこよみ

1日　新学年、緑の週間、エープリルフール
5日　清明
6日　復活祭
8日　花祭り、灌仏会
14日　香取神宮神幸祭
20日　穀雨
22日　靖国神社春祭り
29日　天皇誕生日

横芝俳壇

横芝句会三月例会作品抄

南天の赤まんりゅうの赤春の雪　鳥下　市原　文緒
かたむきし記念碑のもと春芽出づ　栗山　若梅あやめ
よせ切ればよもぎの青や水温む
よもぎ摘むいつしか里を遠くはなれ　栗山　田島　千女
下萌や麦踏む背に陽のにほい
外灯に庭の水仙みごもりぬ　清水　川島　松露
下萌や道しるべ読む山の道
春光や句座を流るる横日筋　清水　斎藤ちくろ
日々通る野良路の萌えて地やわら
春光や倉庫のとびら次々開く　古川　藤代　ゆう
子はまろびまろびつ投げる春の雪
就職の子ら肩宇清し春光る　鳥沼　高埜　孝子
春光や鴉の溜まる松の瘤
寝不足の眼に春光が和みくる　清水　伊藤美佐子
瓦の帽子陽に傾いて雪だるま
梅満開半鐘低くかかりをり　横小　川島　啓明
春光弾ねかえるおおむの笑い
春光や開きしままの絵具箱　横小　古内　青人
春雪さらさらさら不眠の夜をくすぐる
班ら雪フレーム青き色透ける　横小　高品　虎洞
小躍りといふはこの児等春雪譜
ころころと女児の饒舌下萌える

四月例会のお知らせ

○四月十二日午後一時半、句稿締切
○兼題　春灯、木瓜、通して五句
○横芝小学校応接室に於て